

熊本県における要注意外来生物カラドジョウの採集記録

中島 淳¹⁾・水谷 宏²⁾・藤井 法行³⁾

¹⁾NPO 法人流域環境保全ネットワーク, 〒519-2143 三重県松阪市中万町 1281

²⁾株式会社ベントス, 〒819-1138 福岡県糸島市前原駅南 3-1-7

³⁾くまもと淡水魚類研究所, 〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地 1479-5

Record of Precautious Alien Species, *Paramisgurnus dabryanus* (Cobitidae) in Kumamoto Prefecture, Kyushu Island, Japan

Jun NAKAJIMA¹⁾, Hiroshi MIZUTANI²⁾ and Noriyuki FUJII³⁾

¹⁾NPO Network of Conservation in Watershed Environment, Chumacho 1281, Matsusaka, Mie Pref., 519-2143 Japan

²⁾Benthos Inc., Maebaru Eki Minami 3-1-7, Itoshima, Fukuoka Pref., 819-1138 Japan

³⁾Kumamoto Freshwater Fish Institute, Miyaji 1479-5, Ichinomiya, Aso, Kumamoto Pref., 869-2612 Japan

Abstract *Paramisgurnus dabryanus* (Cypriniformes: Cobitidae) is classified by the Japanese Invasive Alien Species Act as precautious alien species. This is the first record of *P. dabryanus* from Kumamoto Prefecture.

Key words : loach, Japanese Invasive Alien Species Act, wetland, genuine freshwater fish

キーワード : ドジョウ, 外来生物法, 湿地, 純淡水魚

カラドジョウはコイ目ドジョウ科に属する純淡水魚類で, 自然分布域は朝鮮半島から中国大陸, 台湾, インドシナ半島とされる (環境省自然環境局野生生物課, 2005). 本種は日本在来のドジョウ *Misgurnus anguillicaudatus* と生態的に競合する可能性があることから, 特定外来生物法による要注意外来生物に指定されている (環境省自然環境局野生生物課, 2005).

本種はこれまでに日本各地で生息・定着が確認されているものの, 西日本からの記録は少ない (農林水産省, 2006). 九州からは1960年代に長崎県から (Oliva and Hensel, 1961; *Misgurnus mizoleps*

elongatus として), 近年になって福岡県遠賀川水系からの報告があるのみである (酒井ほか, 2008). 今回筆者らはこれまで記録のない熊本県白川水系において, 本種を複数個体採集・確認したので, ここに報告する.

2個体, 10.VII.2011, 水谷採集; 5個体, 24.IX.2011, 中島採集; いずれも熊本県阿蘇市内牧 (白川水系黒川につながる農業用水路). 標本は中島が保管.

採集した個体は, 側線縦列鱗数が130枚以下, 尾柄高が尾柄長と等しい, 最長の口髭が吻長より



図1 熊本県阿蘇市で採集されたカラドジョウ
(雄, SL91 mm)



図2 本種を採集した水路

長い、尾鰭基底上部に黒斑がない、などカラドジョウの形態的特徴（藤田，2007）を顕著に有していた（図1）。本種を採集した水路は、底部の一部にコンクリート製U字溝が設置されているものの大部分が埋没しており、底部・岸部ともに植物が繁茂していた（図2）。水位は7月には約60cmであったが、9月には約10cmに低下していた。いずれの時期も目に見える程度の流速はなく、ほぼ止水であった。

7月に採集された2個体はいずれも体長60mm前後の未成魚で、9月に採集された5個体のうち1個体は体長91mmの雄成魚、他4個体は体長48-52mmの未成魚であった。これらのことから、当地では再生産を行い定着しているものと推察される。また、当水路ではこの他に魚類としてドジョウとドンコ *Odontobutis obscura* が、水生昆虫類としてタイコウチ *Laccotrephes japonensis*、ミズカマキリ *Ranatra chinensis*、ガムシ *Hydrophilus acuminatus* などが採集された。

著者のうち藤井は、周辺の白川水系黒川の支流である花原川において、養殖を目的として導入したカラドジョウが逃げ出したという聞き取り情報

を十数年前に得ている。また、採集地付近で耕作を行う農業従事者から、ドジョウを食べるために他地域から持ちこみ放流することもある、との情報も得た。これらのことから、今回発見したカラドジョウは食用目的に人為的に導入されたものを起源とする可能性が高い。

カラドジョウの湿地生態系への影響については不明な点が多く、移入先でドジョウと共存している例は複数知られている（金尾・上野，2005；加納ほか，2007；酒井ほか，2008）。しかしながら、愛媛県久万高原町ではドジョウを駆逐した可能性が指摘されており（清水・高木，2010）、群馬県渡良瀬川水系ではケシゲンゴロウ亜科幼虫をはじめとする多種類の底生無脊椎動物を捕食していたという報告がある（加納ほか，2007）。これらのことから、外来種であるカラドジョウの定着は、在来の湿地生態系へ何らかの悪影響を与える可能性が高い。今後、本種がこれ以上分布を拡大しないよう、注意していく必要があるだろう。

末筆ながら本種について種々ご教示いただいた、北野 忠博士（東海大学）、金尾滋史氏（滋賀県立琵琶湖博物館）に厚くお礼申し上げる。

文 献

- 藤田朝彦（2007）本邦で確認されている“カラドジョウ”の学名について．魚類学雑誌，**54**: 243-244.
- 金尾滋史・上野笹司（2005）滋賀県におけるカラドジョウの初記録と定着について．関西自然保護機構会誌，**27**: 59-63.
- 加納光樹・斉藤秀生・淵上聡子・今村彰伸・今井仁・多紀保彦（2007）渡良瀬川水系の農業水路におけるカラドジョウとドジョウの出現様式と食性．水産増殖，**55**: 109-114.
- 環境省自然環境局野生生物課（2005）要注意外来生物リスト：魚類（詳細）カラドジョウ．
http://www.env.go.jp/nature/intro/1outline/caution/detail_gyo.html（2011年10月14日閲覧）
- 農林水産省（2006）農林水産省と環境省の連携による「田んぼの生きもの調査2005」の結果について 図6.カラドジョウの生息状況.

http://www.maff.go.jp/j/press/cont2/pdf/20060324press_4h.pdf (2011年10月14日閲覧)

Oliva, O., Hensel, K. (1961) Some remarks on Eastern Asiatic loaches of the genus *Misgurnus* (Cobitidae). *Japanese Journal of Ichthyology*, **8**: 86-91.

酒井奈美・水谷 宏・堤 宏徳 (2008) 遠賀川水系彦山川におけるカラドジョウの採集記録. わたしたちの自然史, (105): 17-18.

清水孝昭・高木基裕 (2010) 愛媛県に侵入したカラドジョウ集団内に見られた起源の異なる2つの遺伝子系統. 魚類学雑誌, **57**: 125-134.